

# 病気を直す方法

## ゼンソク・胃ガイヨウ・アル中

ゼンソクには奇跡の石があり、と読者の声で知られてくれた工さんか、その後、渡せの作業場にこられ、あれ、あきませんでした。

工さんは以前、A建設へ一緒に仕事を行っていたが、持病があることは信じられないぐらによく勤くんだ。そして、わざわざ訂正にうるるくらい律儀な人だ。

あの石も最初はよかつた人ですけどねえ、

今は、酢、ありますしやろ、あわを盃に一杯飲みますわ島、えらいもんですわ、ピタッとまことに。

セキがでさうな時に、酢を飲むと、あのス

ら、胃が痛いのをだましたまし仕事していったが、とうてつきの帰ってきた、といふ。

刺激物を避け、塩を飲んで氣をつけていたのが、医者に行くと胃ガイヨウと診断された。なんてかゆらぎに直す方法はないだろうか、と相談され、頭に浮んだのが食事療法、「新食養術」なる本と、西橋田たある、福圓へという自然食の店を教える。大いに気にいったらしく、アブセモラフで福圓で麺のハンを食べて、夜はらこで置った玄米オニギリ。と、生活をしばらく続けたらしく、すこし痛が止つち、といふ。もちろん、医者たもたきて、毎日注射はしてもらつていた。

たき出しの列が長く長くなるのを瞠目大見ながら、食事の計は、ヤメ、と気がわかる。

ソバまで身がしまって、とまる。なんてなく、合理的やな、と感じました。

次の日曜に畠仕事に行きました。なんとなく束したのですが、都合が悪かったのか一られなかつた。酢がさかなくなつたのかな、配

です。

最近の新聞で読んだところによると、ゼンソクの発作があきらくなつて、腹式呼吸をするがよ、どう、子供達に<sup>は</sup>呼吸法を身につけさせたために、一工夫した歌が作られています。

体

中

外

仕事が少くてアブセモラフが多めと人に会う機会も多くなる。

御座り屋でよく園暮したのさんと会つた

## 食物で病気を治す法

### 胃脳(胃酸过多、胃弛張、胃潰瘍)

氷水、アイスクリーム、冷しメン、又はネビエから来た良性胃ガタルは塩湯の或は湯煮蒟蒻で胸脳筋をよくあたためる。ハキケある時は醬油の塩脣茶の叶、胃の部を温め、痛みのある時は梅生ガ番布を温服する。流動物セカユヤ五子などはフルイ。胡麻鹽のオニギリ(玄米か全米)のも十二分にかんで、ドロドロにしてからのむこと。オサイは梅干と古ハタクアンだけ。食糞のない時は玄米クリーム(塩味)。

禁物—ミルク、生玉子、ソーフ、豆乳、サイダー、酒類、上品、新漬物、菓子、フグモ

アーモンド・アン類、ジャガイモ、冬がん、塩氣  
の薄い物、さとうきとスの気の物、湯薬、肉  
類、魚類等。

### ゼンソク

副食中最も努力のあるのは蓮根と油草類で  
其他筍、牛蒡、蒟蒻、葉菜、大根等宜し。筍  
物は新漬、果物、牛乳、生玉子、酒、醋の物  
等、全て細繕を強調せるものが良くない。  
無論せば不消化物(せ間で二三所の)に油氣  
を加え塩等く煮たものを副食とし、之を持  
続すれば相応する。而して蓮根と筍等を入れ  
て煎じた玄米粥を不斷湯舟の外りに一日  
数回用ひよて大層宜しい。

味噌作す中は蓮根節と生姜即塩砂糖少量  
入カ熱湯を注<sup>フ</sup>一日ニ一日回飲用すよがよい。

病の項目紹介

肝臓の病氣はオソロシイ。早く死ぬし他にイ  
ロイロな病氣がある。

ハして大きくなっているときは生姜湯で蒸  
し、芋バスターをする。イタミあるときは其  
上からウデコンニヤフ<sup>フ</sup>温めよとい。腹水  
は生姜湯でかした後ソババスターを貼り、其  
上から芍薦<sup>カクセ</sup>で温めよがよい。熱のある時は  
頭に豆腐バスター、ハキケの時はゴマ塩附或  
米々スピガ一畳より。玄米ヘスープフリーム  
でなく<sup>フ</sup>用うること。正食だけではある。ニ  
「日でも三十日でも断食は大へんよい」

# あとがき

な、ほんと六ヶ月ぶり、渡世はもう  
つぶれたな、と皆思ひ、こりる頃、又登場  
ひす。

原稿はアリとスンナリ作つまるのですね、  
何せ、手作りはそので、製版、印刷、製本と  
いった作業に手をつく、発行が遅れます。  
今号も、文中の字を見ていただけがかかるよ  
うなものです。

X

X

X

先日、テレビに「裸の会」をやっていた松  
原さんが出ていたけれど、昔にくらべて今は何

# 赤山・原稿・作業協力

無責任者(下)

一九八〇年六月三日発行 第三四号  
労務資源世編集委員会  
大阪市西成区萩之茶屋三一六一三五  
御振屋・氣付